



花さき山

タイトル文字：滝平二郎



映画会

「DOG DAYS 君といつまでも」
(上映時間 120 分・字幕)

日時：5 月 17 日 (日)

① 10:00～ ② 14:00～

場所：明野図書館 視聴覚室

事前申し込み不要です。

※2 回とも内容は同じです。

お誕生日おはなし会

日時：5 月 23 日 (土)
11:00～



一緒に簡単な工作をしませんか？
読み聞かせもあるよ。

※事前申し込み不要です。

育児コンシェルジュによるおはなし会

毎週土曜日

11:00～11:30

【育児コンシェルジュ】

10:00～14:30

5/16(土)は中止になります。

こどもの読書週間イベント

【一日図書館員体験】

日時：5 月 24 日 (土)

14:00～16:00

場所：明野図書館 視聴覚室

対象：小学校 4 年生～6 年生 定員 3 名

内容：図書館でのお仕事を体験しよう！

申込：5 月 12 日 (火) から

明野図書館カウンターまたは
お電話 (52-2466) で！



5 月の特集コーナー

「旅」

新緑の季節、どこかに出かけて
みませんか？

いろいろな旅の本をあつめて
みました。お立ち寄りください。

★クイズに挑戦！！★

【今月の問題】

こどもの日にちまきをたべるのはなぜ？

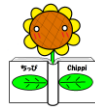


※答えが待ちきれない方は→
前月号の答えは「大天使ガブリエルが聖母マ
リアに受胎告知したから」でした。

○明野図書館カレンダー○

2026 年 5 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

：休館日



「川島地域活性化活動に参加して ～地域を知る～」

水木 洋三

郷里を離れ、川島（当時下館市）の地に赴任して半世紀以上が過ぎました。以来、一度も転勤しなかったが、歴史・文化の豊かさを地域で共有し、交流を再開して活動の中で、昭和14年から16年にかけて発掘された「女方人面土器」が、戦乱の影響で東京国立博物館に収容されたためか、地元の方々にほとんど知られていないという実態に直面しました。この土器は約2300年前（弥生時代中期）の貴重な遺物であり、当時の生活スタイルや故人を敬う精神性を今に伝えるものです。そこで私たちは「おかえりなさい人面土器」を合言葉に、東京国立博物館から提供された最新の3Dデータを活用し、精巧なレプリカを設置するプロジェクトを立ち上げました。川島地域の各戸を訪問して趣旨を説明し、賛同を募ることから始めました。その結果、川島駅前市営花壇の使用許可をいただき、地元の建設業者の協力によって、鬼怒川の河岸段丘を連想させる石積み台座が完成。令和3年11月、本物さながらの人面土器レプリカが建立されました。併せて募集した愛称と川柳には841件もの応募があり、愛称の部では「おどきさん」（川島小5年）、川柳の部では「動き出す弥生の記録今再び」（鬼怒商2年）が最優秀賞に選ばれました。同年12月の除幕式には約300人が集まり、「地元からこんな凄いものが出土していたのか」と驚きの声が上がりました。紙芝居や歌を通じて子供たちに土器を身近に感じてもらう工夫も凝らし、極めて有意義な式典となりました。川島の繁栄は、まさに鬼怒川とともにあったと言えます。江戸時代から鬼怒川沿いには46カ所の河岸があり、東北の農産物を江戸へ、江戸の品々を地方へと運ぶ物流の要所でした。明治25年出版の『大日本博覧図』に掲載された「川島東京間早船貨物運送各地鐵道川船貨物積替運送所」という銅版画には、水戸線や大型の高瀬舟が描かれ当時の活気ある様子が鳥瞰図として残されています。この貴重な歴史を次世代に伝えるべく、令和4年春より銅版画の看板設置活動を開始しました。まずは学びを深めるため、筑西市の野村氏を講師に迎え、「私たちの川島」と題した勉強会を開催し、地域一丸となって知見を広めました。令和5年10月には、小雨の中200名以上の参加を得て、川島駅前に大型銅版画看板を設置。続く「川島まち探検シンポジウム」では、川島・小川両河岸の旧家当主や語り部の方々により、鬼怒川の昔話に花が咲きました。中学生による管弦楽演奏などの催しもあり、多世代が交流する場となりました。地域の活性化には、子供たちへの啓蒙と「人づくり」が欠かせません。川島小学校との連携により、令和7年度からは2年生の「まち探検」の一環として駅前での解説を実施。人面土器の缶バッジ配布や、実際に土器に触れる体験に、子供たちは目を輝かせていました。また、6年生を対象にした「人面土器づくり」の前授業では、歴史講義のあと、徳利に粘土を貼り付けて彩りす工作を行いました。想像力豊かに形を作り上げる子供たちの姿に、頼もしさを感じた次第です。想い豊かに形を作り上げる子供たちの姿に、頼もしさを感じた次第です。こうした活動の広がりが、洋菓子「女の夢」や焼酎「女方人面土器」といった地域振興商品の開発に繋がったことは、大きな喜びです。地域の活性化には、中身のあるコミュニケーションと、粘り強い草の根の活動こそが重要であると改めて実感しています。以上

（みずき ようぞう／筑西市郷土史を考える会 会員 川島まちづくりプロジェクト 代表）